

FIFAワールドカップ2022・カタール大会 バウンダリ・排出量算定等

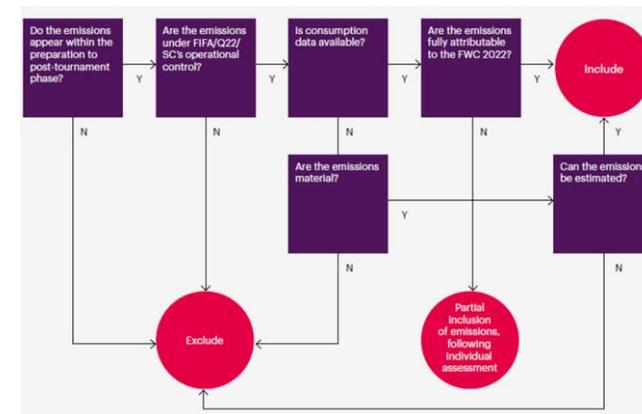
2025年日本国際博覧会協会
持続可能性部

2023年2月1日



算定方法とバウンダリ等の算定の対象

- 算定方法: FIFAワールドカップカタール大会のGHG排出量の算定報告の方法はGHG Protocolに基づき行っている。
- 算定対象期間(時間的なバウンダリ): 2011年4月～2023年6月までの準備段階、ワールドカップ実施段階、事後段階の3段階が対象。
- 算定対象の組織範囲(組織のバウンダリ): GHGプロトコールの運営支配力基準を採用し、財務的な支配力は有していないが、全体の実施への影響力を有している活動、イベントを対象とした。
 - FIFA等の主催組織の運営
 - 会場の建設(恒久、仮設)
 - クラブワールドカップ、ワールドカップ、ファンフェス等の関連するイベントの実施
 - 仮設施設の解体、FIFA資材の輸送
- 算定対象とする排出源の選択: ワールドカップ関連の排出かを検討するディシジョンツリーを用いて決定。
- 算定対象とした排出源は以下を含めている。
 - スタッフ、観客等の来場者の国内外の移動、宿泊
 - 会場の建設、運営、解体
 - 資材・物資等の輸送、倉庫の運営
 - 資材、物品の調達
 - メディア向けのインフラ、メディアの運営



Scope1,2,3の算定対象と排出量

- Scope1,2,3の算定対象と排出量は下表の通り。カタール大会のGHG排出量は合計**363万トンCO₂**で、**Scope3排出量が98%**を占める。

Scope	算定対象	事前算定での排出量	割合
Scope 1	<ul style="list-style-type: none"> 会場内での電力、熱の生成に伴う排出 車両の燃料消費による排出 空調、冷却設備からの冷媒の漏洩 	35,103 tonCO ₂	1%
Scope 2	<ul style="list-style-type: none"> 会場、事務所で使用する外部からの電力、地域冷房の購入 	37,216 tonCO ₂	1%
Scope 3	<ul style="list-style-type: none"> カテゴリ1:原材料、サービスの調達(建設資材、販売品等) カテゴリ3:電力・燃料のライフサイクル排出の上流での排出 カテゴリ4:調達した原材料等の輸送 カテゴリ5:会場運営時の廃棄物の管理 カテゴリ6:従業員、コントラクター、来場者等の移動と宿泊 カテゴリ8:イベント主催者が他社からリースした会場・事務所の運営 	3,558,715 tonCO ₂	98%

- Scope3排出量で**最も多いのが関係者・来場者の国際航空移動で176万トン**であり、これに加えて宿泊72.8万トン、仮設・恒久施設の建設81.6万トンの3つで大半の330万トン占める。
- なお、大会後に解体しない恒久施設の排出量は、LCAの考え方による排出量評価結果をワールドカップでの使用期間に基づき、排出量を割り当てている。このため、恒久施設建設の排出量は小さくなっている。
- 公表されている事前の算定報告書では、算定に用いた排出係数のデータベースも示されているなど、**算定の根拠を一定程度詳しく説明**している。
- 例えば、排出量の多い来場者の移動・宿泊による排出については、来場者の区分別に排出算定値が示されており、その根拠として、来場者の区分の設定と各区分別の人数や出発地別、移動手段別での割合の想定を置いて算定していることが報告書で説明されている。

